俳諧玉葉集

へ 5
4443

集

一葉舎藏板

成簡書

の校正乃古對のうゝ本おりうも
もゝあるとゝやさきに八古集
るの新をうあゝ校正
乃かゝさきみちの祖の弟一芭
俳諧をうゝさ校正乃光り
をうけて正正本の秘の俳
校の契を殺玉りゝ世をの
世世をうして波二を初和さし
朴ゝるかりゝや

寛永十年　弘安書

へ 5
4443
門 境巻
昭和九年
九月二八日
購求

凡例

一 蕉翁一芭代俳諧をまとめ給ふ事ハ元禄の比なれ共次第分明ならず 栗本の是
文をうゝ天和のひまて次第分明ならずくゝあけまれいまれなくこある
句をこゝくゝ
ねゝゝうてすめくゝあるゝ檀林の習ひを
めゝれさるゆゑあゝ
こゝひあゝまちゝ
ふゝゝろゝうて
をさをしむわゝ

一 表紙ハ六部紙に赤満のるゝ
蕉翁へ献ずして表に句より以上代を後載
一 集中に句の内うゝゝゝさ付句ハ
ゝゝこゝ俳集ハ一ゝれゝゝゝ載て
後世をまつ

一 古集ゝ文学のあゝまり俳学のなゝゝ
ゝゝにあゝゝゝむ
一 出満の俳諧の中 蕉翁高弟の俳諧
して一巻ゝなり 他なる古集ゝ
ゝゝうのゝゝを載

一 巻ゝに殘句ハ
て再れ首ゝ
みやゝふゝ
一 今学ゝゝゝ
を蕉翁の俳諧
ものゝゝゝゝ
因ゝゝゝゆゑ

四海主人

いの部

はの部

ほの部

との部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わかすすひあけくれみそれば　七五ウ
けの部
ケまくうくも年とれるくれ　五十二ウ
ふの部
風流のくもわおくの田うえて　廿五オ
文月やこうも常代ゆかし　廿九ウ
風流のまことをかくや月まつ　五十ウ
旅寝れば夢あくれをうれまりそれを海　六十オ
この部
はるくる年雑ちくうん笠一くれ　四十オ
春のくれはなきかかわれ鶯鳴　廿三ウ
ちんやくるくりかさ雲うつあるば　仝
ちくるくるけもなれふまくくれ　三十六ウ
春はとくれけも鶯ちくくば　三十七オ
はは里ちかを四面やみくこう　四十ウ
春はちくこけもなれもくくば　四八ウ
春ちしくるめくるるれきへ湯れ　五十五オ
小仏城約てなくりんくの九　五十六ウ
五人枝おあてちくくく柳ば九　五七ウ
ちくくやれ人なくくくれ　七四ウ
江の部
いくくくくくくくくくくくくくれ　十一オ
あの部
番うくくくくくくくくくくくくく

一葉舎伯鬼　撰
蕗廼屋宥有　校

七十オ　八十ウ　三十三オ　三十八オ　四十二オ　六十九ウ　四十七オ　六十三ウ　五十四オ　六十ウ　二十ウ　五十ウ　廿六ウ　三十八オ　四十三ウ　四十八オ

巻第百七十巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水子と美濃国に至りて中うよ
山茶花と申す山茶花木なり
いうまでもなく雑西年を打あれ 羽笠
根ぬきあり 枯さしの松 芳号
木綿うまきまき 重五
根笠をまきまを 牡國
紙うり 蛭かつん 月を海 菊
ひしうの梅をもうに岐阜山 聖水
海をて時の来潮 相薬
半ば 鶴を 東菊
二百年ほど山 工山
樫の種 薬
八月の 菊
海原 相薬
雲 菊
一ぞん 山
樹の立夫二日ならず 菊
月 薬
雲芝 菊
華表 山
笠 薬
秋の鳥 菊
をもうひの理 山
雲 菊
石の 山
黄人 薬
生海 菊
本 山
藤 菊
ゆく 山
ひ 菊
硫黄 山
高 菊
不 薬
海 菊
田 山
海 薬
双 菊
数 山
陸 薬
川 菊
金利 山
羽織 菊
海 薬
ゆく 菊
海 薬
ゆく 菊
海 薬
ゆく

相模

相模

地震大ゝ道立派の志を堅
固にせんことをうべし　桔梗
傍山の五葉の松きこ蓑子縁
とされて長き根の樊を
お玉杯の白うもりして扇者
枕の色合は茶　紅小袖
物売の袖へおろもと　藍
紅の色ひく　紫の燈籠
蜘蛛は行ひ　月は雲
風は物ゝ　白砂
振舞をせんと　坊の白
妻かゝりてゝ　もたら仲居入
強いの　絵と出
酒さかの　茶
色は　端
色は　扇
うれも角紅　茶
出のひ立本多や　桔梗
家れ材法く　四の友表
生の子法氣とのむ氣　桂樹
竹子と後ゝ　竹の海棠
絵でも雪の越ゝ　下枝
ひとうけ　柳葉
蓑笠や法の　山
狂歌の語　扇
華紙と後を　岡水
ゑさけ市　桂樹
蓑ゝ長寿の　葉
よ竹　水

宵言葉武蔵石川長竹

ちゝしさの　扇
書語をそ　扇
杉の　花雪
酒底　長角
社の　丸
華陸仰く　扇
みの　コ
　　玉堂

地震

悲ゝ　扇
水きゝ　雪
戸酒の　角
酒園梨　丸
気ゝく　扇
無ゝ　重
旬ゝ　風
雪庭　扇
酒ゝ　雪
吹祭　角
浮世　丸
酒ゝ　扇
ゝ　風
ゝ　扇
ゝ　雪
ゝ　角
ゝ　丸
ゝ　扇
ゝ　雪
ゝ　風

二ゝ人の　扇
ゝ　角
ゝ　丸
ゝ　扇
ゝ　雪
ゝ　風
ゝ　扇
ゝ　雪
ゝ　角
ゝ　丸
ゝ　扇
ゝ　雪
ゝ　風

二ゝ武士の　扇
七里法　角
道玉社　丸
槐の山　扇
陸酒神社　雪
社女さ　風

いけちを甲斐の殿とも云へよ
注の土豪刑部をはみおうん
まつうー行記
[illegible]
二 格出小田と
妙る雷鳴る雨降て
殿さの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和漢

[illegible]

煎茶蛇避烟　白

合歡醒馬上　去堂

[illegible]

月代見金氣　白

露繁添玉滴　堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一月十二日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

布袋　ほてい　ほていあきの風　月　人　夏　扇　水　り　人

まつ　ゆ　ほていの　ほていの　ほていの

長江　芳芳　一井　越人　胡及　荒陣　爲

相東　爲　東花　工山　岡水　鶴等　鶴　叩鶴

爲　爲　爲　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀新宅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一書ニ

[illegible]

二 [illegible]

[illegible]

[illegible]

武士みられ入る東西の門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二 出城の堀より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月的皆の事を経しせつ
ほていてく渡う井の
あり月のあり
赤はつて二月
かき清る夢八雲
夢ゑ　すると
うす雪を椽の
湯の香ゑ
紙の雪を
傳うけ
月の光は
二月鶯清う
ちくりの
ゆるおとろく
野ゑ
うも
鶯の
年うち

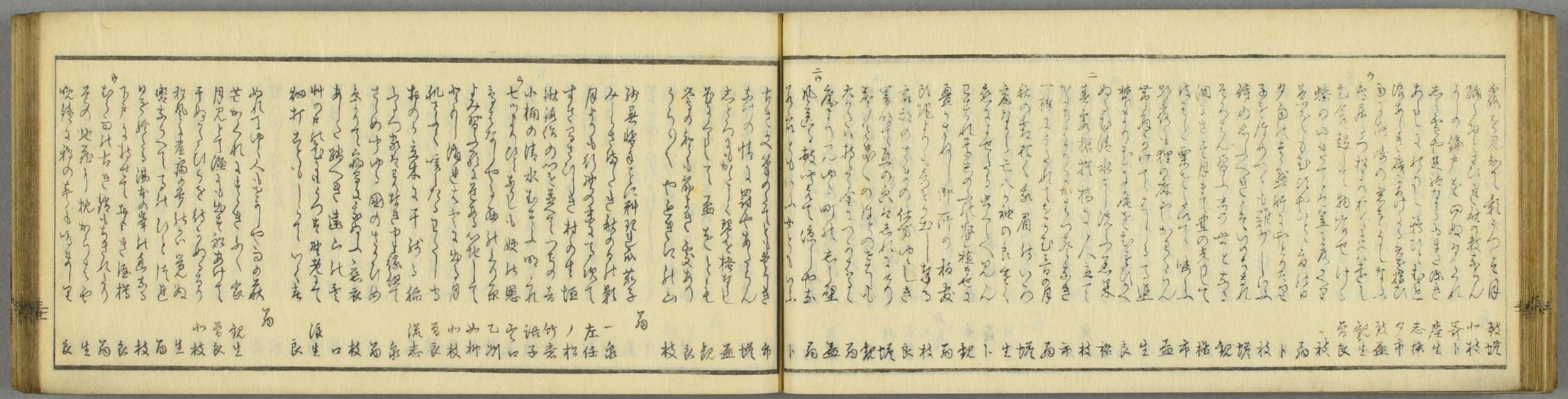
水良　為　雪　九　入　良　九　為　水　九　雪　為　九　良　為　水　良　為　九　良　為　九　良　為　九

[illegible]

文月中ごろ、[illegible]相は一条[illegible]

[illegible]

[illegible]



枝　生　為　枝　良　為　枝　良　為　生　枝　良　為　枝　良　為　生　枝　良　為　生　枝　良　為　生　枝　良

為　生　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　子　焼　為　生

他の者にても有べき事なれども
此もは郭慶さくに 仲恒 子 恒 枝
るるて蓮池のゆくれもとれ 小枝
花咲かくくこのまうめ 為良
月のようと角かを待縄ぬまて
鶯もうつるもやそこのうう 枝
夢湖又鶴の布くむものやと 為良
集刈こうもの宗社無き 為
あれ海ひの法山ち黄の寺 枝
遊女は五人田舎ものもあり 良
為さく名きの君ものもあり 為
数を割ぬとも重くくぬ之 枝
道の布くくもやく冠浦き 良
先祖れ為をは待へくる門 為
みの名うれと雨かく方 枝
為うのもうの山嵐の方竹 良
鶯ものてぬるも涙うて 為
しくうきかりのつく英れ 枝
花のもやかきの町清ろ 良
たくをけくせる宝仏の船 為
二 君をもて出て雑彼の見をし 枝
紙のふ絵と出き芋焼 良
多枕う走おの焼くくし 為
うくくかれとけくく度西 枝
絶ゆ絶葉をの方仏し 為
郭蔵人ゆて人のきく物 枝
明ものの君屋も帰きよ 為
あくれうは行くこ二日月の紙 枝
仏数心をけきて浦紙して 為
山畑もちう伊勢の神仏 枝
庵庵て葉の月水もをを 為
二 百くれのう枕枕清くあり 枝
細きき仏女対姿なをれいの上 為
あのねをーー清く水のきく波 枝
仲恒う書のあちこち紛め 為
きーつのひをを立るは上 枝

加田縫て 為そん 為
碁粗人と佐生とれ ゆく 為
一ーー為くえ強くうを強のまくく 為
むりのこひ為を 為
紙るもむなくく 為
あしうくるひ為の 為
植本を植本を将をかるん 為
食比もくくもぬ 為
仇絵て人こえさ 為
定そ結うん時の 為
葉つくく結う仏 為
清くを老くくめ 為
彩ものを者の主 為
月えありき 為
さもくの貝殻 為
地獄絵き書さ 為
きめくけ庵目う 為
絵うた柳まかを 為
二 為の菓ものと 為
きくきくきを為 為
あしいひうる 為
笹きうり好き 為
るくるを為くを 為
多あくくうむ 為
絵くくくい井 為
為くくを越産 為
業まくくく人 為
四を実くるり 為
犬吼うくく森 為
夕月数返をう 為
くくくくきもき 為
二 業くくを彩為 為
きや仕巻れう 為
打ものを下えや 為
表ものかけく一 為

踏面 為
絵業 為
為 為
為 為
為

唐崎の松の色こそ花つくし　夕
かすみ　夕　秋等

雲あしの遠ぬ山の月の行かゝれ　不加
物思ひ　荒海　荒海　荒海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ウ 猿のかみくゝる椎の葉、菊
石壇は徒月も又えん苔は綾 麦
ゆるゝれしてる城のるゝ水 芳
家屋のたゝりはやくやもらん 不
本幡あるゝ社宮のゆゝしれ 麦
黄昏をんせんとへのみちゆきて 湘
井戸のそくゝるいつきはゝ 菊
たゝーしの裡よりて母を結 不
町ゐるそゝそゝ母をもて亟せる 菊
窓てかさちをうくゝたの尾手をて 麦
仰ずえゝてる猿母子ゝ花力 芳
まんちゝ代紅つけちゝ花むきゝ 宇珊
ゆゝ二は海さけ 菊
二 陽炎は社みきゝに揚を打つゝを 菊
まけゝくゝせひのゝさけ数 不
ゝの子夜の鍋焼ゝを搾のゝと 湘
ひゝへのきめゝ雲ゝつをゝ 菊
鈔の家も鉢巻ゝ人廣ゝ宮 不
ゝくゝ弱ゝーきゝ麦ゝをきゝく 麦
御仏ゝつゝ麦ゝつゝ 芳
源氏をゝうゝつゝもゝをゝゝゝ 珊
ひゝちゝゝの寺をゝひのゝゝ 麦
蓋ゝ椿のゝちゝ出の蓋絶ゝう 菊
夕月を扇ゝ蓋ゝ秋のゝ 芳
蓋ゝ人ゝみのひし 不
ゝ蓋の五代ゝ蓋ゝをつけて 湘
ゝ月ゝゝゝ二蓋ゝ湘
蝶ゝきゝく蓋ゝ 菊
ゝゝゝゝ蓋ゝの蓋ゝ 不
きーゝゝ蓋ゝ蓋ゝ 麦
蓋

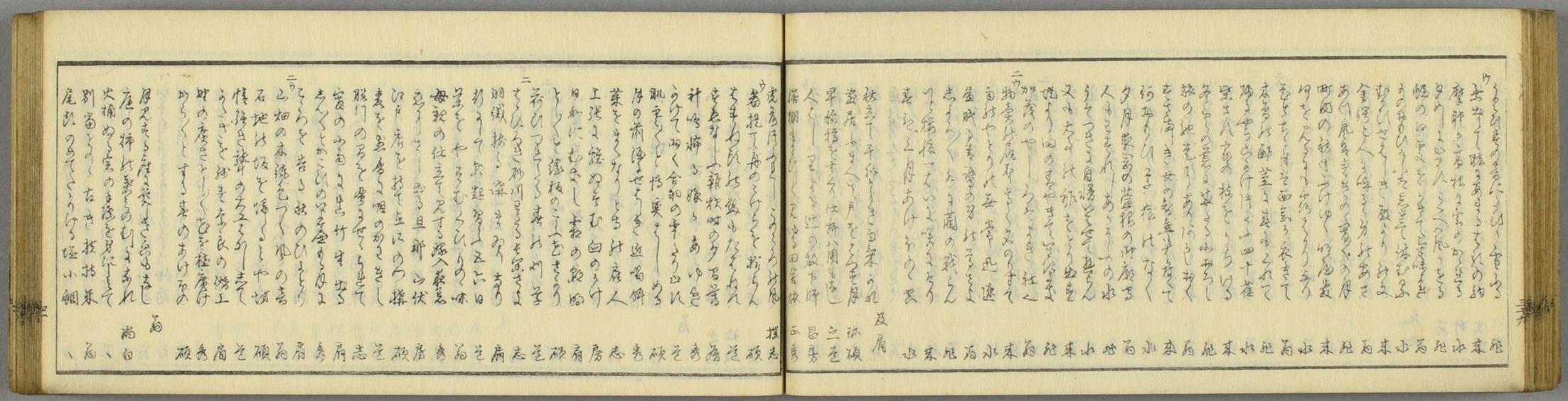
経芽中五のゝ宇珊
犬猫ゝきけゝ芳
源ゝゝ上芳
徒ゝゝゝ不
五蓋のゝゝ良不
ゝ珊

ウ ひゝゝゝの花ゝ結ゝ 菊
松風ゝ猫の尾ゝ 芳
小信ゝゝゝせゝ 不
やゝゝゝゝ例の猫ゝ 麦
面賀の松ゝ男ゝ 菊
ゝ枕ゝ男ゝ 芳
人ゝゝゝゝゝ 珊
蓋仲の色ゝ加 麦
秋立ゝ蝉ゝ 菊
月ゝて石ゝ 不
ゝられて ゝ 芳
ゝ猫の ゝ 珊
ゝ細ゝ ゝ 麦
二 猫ゝ月の ゝ 菊
ゝ猫ゝ ゝ 芳
ゝゝ ゝ 珊
ゝゝ ゝ 麦
ゝゝ ゝ 菊
ゝゝ ゝ 不
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



百あ一めくる川めの上
宰寛て年人あき宗仲重
白けくもりうる屋敷福を
一むらむすれて約る市の子
まひうくまれ飯ほうむと
いくるりとまうくる田筍
ゆて伊まて日をれるいつ
男おおおさくて志ほる小屋の
桂板うるわ板をうけ出
行書る数を業を秋をて
大又は数をいのる辻立
三四の精采薬よおさうり
八さくりより業の所海
二房陽るまを板るうて
折ちるるすくむえう雪
商人の絵さまくくく絵解
ものくくまや合いやちーの点
篠の考るるるる山れぬ考て
悪さふるるるるあ世樹
棚は形まー たくる雨番
寄る寓嵩るる金も某ようり
箋恭仁る栗の栗角氏考さく
酒ゆ伊て出小れ三一日月
言和の惟よの帰るるれ八一生年
すくるる帰るるるるるれ
二四川の安寄の付け夕るれ
小草ちくくく蝶をるるる之
うを宮のやそれるるの考き
あるくくて拝る実れ茶
宮あけ考屋をの拝の色
れ西姫るいろくの線
白数ぬく神のやきりくれ
八りを すくるる西宮れ母
あ多語の四じかを秋の基て
かるるるくくれ栗
河鳳る竹の後けくくと

表れ小うぬを
腐るて一切を
順るそう織の帯
るーるる拝の
山るる拝の
かて谷ようの
屋ろる実の
朝も鎮を浮
るるくくる本
又も海を れ
呼くるを の
屋茶をうて

安くくるて
ふわをなくて
ひくるきて嵯
浮るて付
るくくく付て
嵯くうるて
石れるる屋の
戦争の霧を
ふを屋つくし
移ず本れ山
渤を屋るる
月新るるる
出るくくる
新るを付
髪の白数を
年くくのを
きーるる年
二考れ宮の下
るるるのの
ケ付きるる
いるれふるる
汗るるきくを

表
腐
順
織
拝
山
谷
屋
朝
鎮
浮
本
海
月
出
新
髪
年
考
宮
下
ケ
汗

百
宰
寛
人
絵
解
考
宮
白
数
八
八
西
宮
母
秋
基
栗
後
栗

成美
説通
文華
惟然
稽猿
四則
蹇江
陽重
華考
兎苓
四秀
則
重氏
重古
学
別
嵯
四華
江
苓
美

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あす[illegible]酒
[illegible]菊
[illegible]壺
[illegible]那
[illegible]茶
[illegible]酒
[illegible]為
[illegible]壺
[illegible]邦
[illegible]茶
[illegible]酒
[illegible]筆

探志

[illegible]正秀
[illegible]貝殻
[illegible]盤子
[illegible]為
[illegible]及肩
[illegible]雙江
[illegible]志
[illegible]秀
[illegible]為
[illegible]等
[illegible]殿
[illegible]永
[illegible]江
[illegible]為
[illegible]志
[illegible]肩
[illegible]殿
[illegible]秀
[illegible]子
[illegible]江
[illegible]為
[illegible]房

[illegible]秀
[illegible]志
[illegible]子松
[illegible]為

[illegible]跡通
[illegible]史邦
[illegible]文茅
[illegible]去林
[illegible]壁童
[illegible]正秀
[illegible]為
[illegible]酒
[illegible]邦
[illegible]等
[illegible]林
[illegible]壺
[illegible]秀
[illegible]為
[illegible]酒

[illegible]

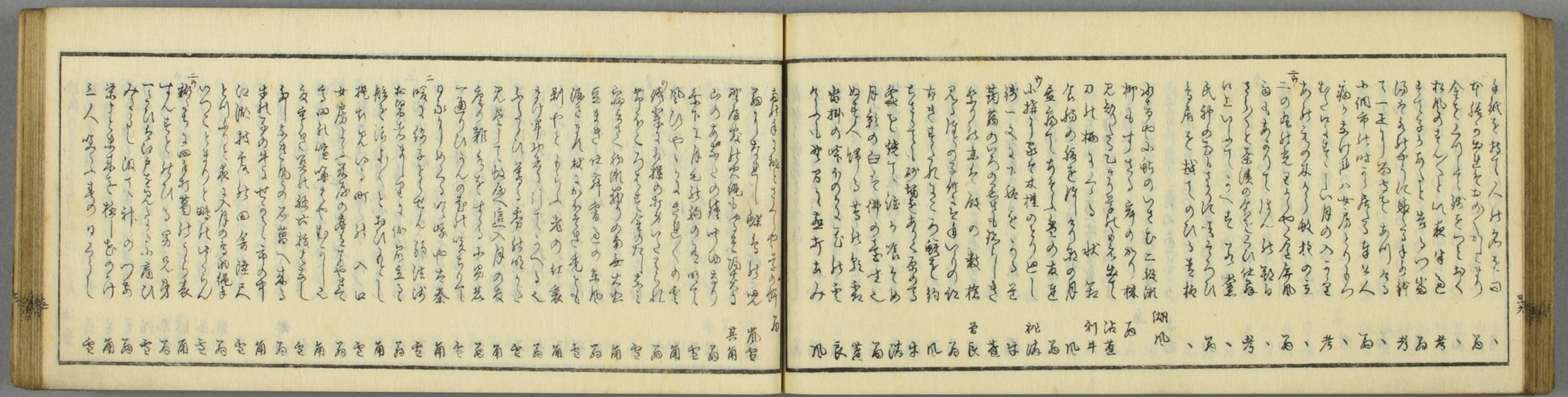
[illegible]

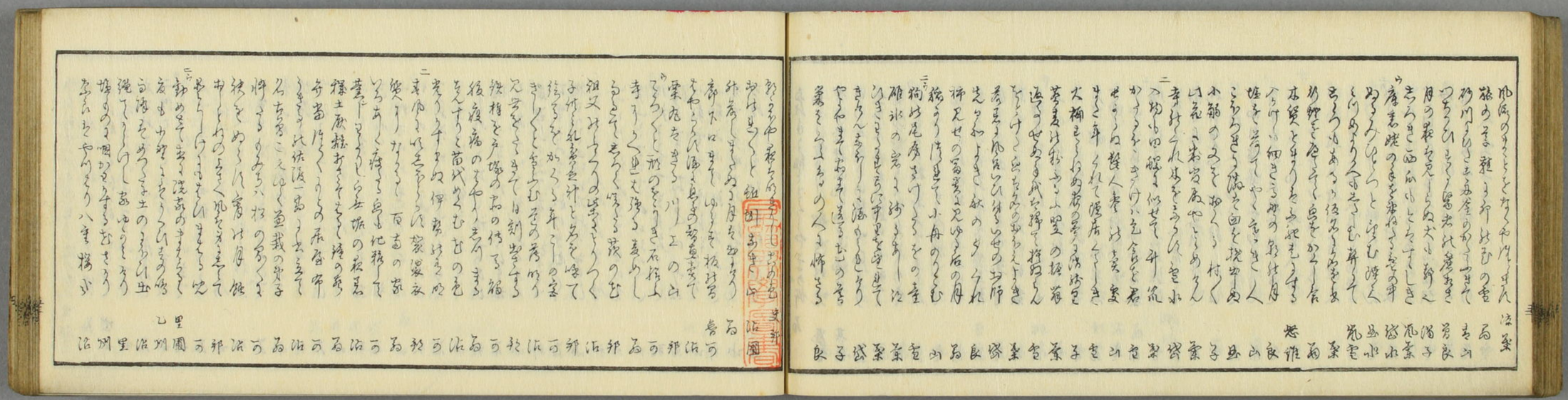
[illegible]

元禄五壬申

元禄庚午の年の春の頃

元禄四壬申

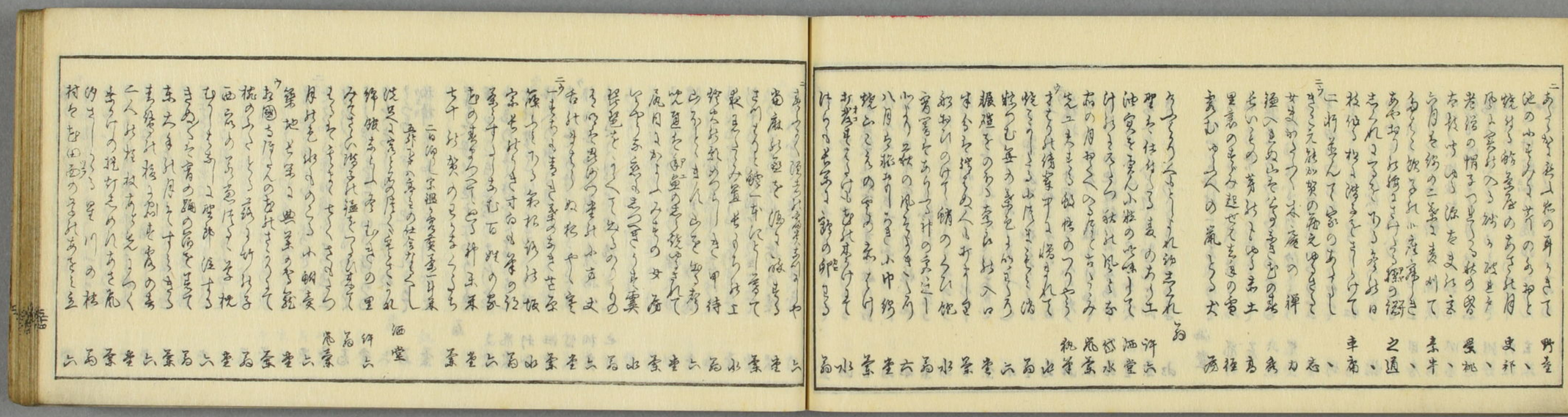




[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元暦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孤屋

十三夜 晩やまだ一晩 月ぞ 酒子

小袖の袖 袖なる色 雨雪 為良

焼飯 なかの袖 袖なる色 為良

苔むす 苔むす 為良

白雲 雲の中 為良

うこみ 流れ 為良

きり 雲 為良

雲 為良

松 松 為良

柴 為良

柴 為良

門 為良

[illegible]

十六日、[illegible]

[illegible]

[illegible]

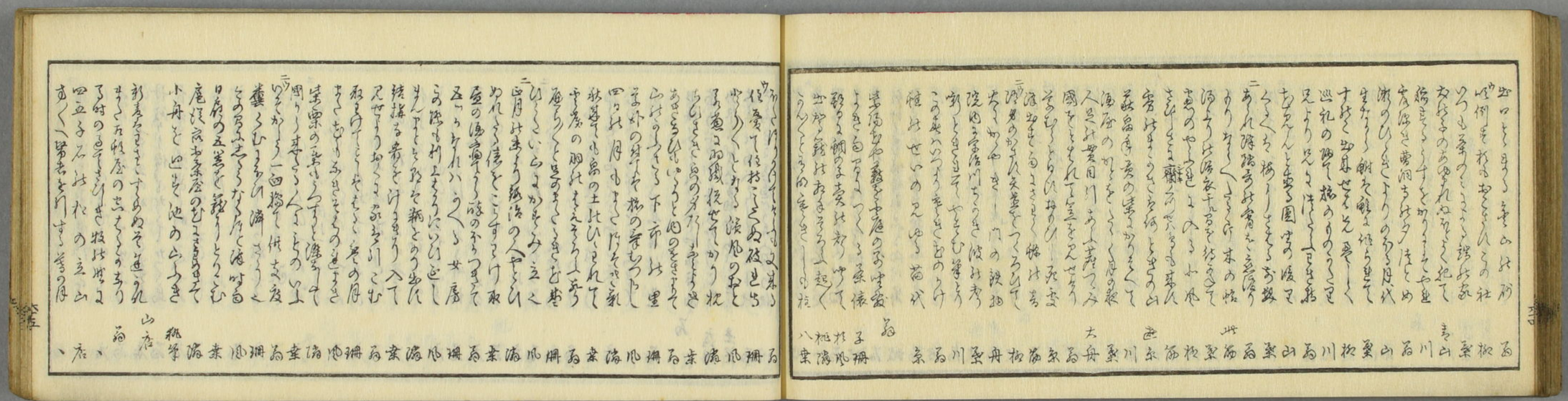
波寄せ雷とく雨降る時は
時々しるかの掛物をいとて
扇箱などもうの風吹き
上置き干菓子もうの出
る出ぬりた肉て、意まる
紙雪花七ちくを切てつまて
婦ちつ あれ 五十石より
此者は徳鬼もを千ち月も
砂ちあくみ付くつる寒子
二新畑は葉も蒔つく雪の上
はと〳〵也しる笠とりる行
川ちの岸は雪をあ雪ちり
平地のちは うの方へ義姫
千物とち間の京へ行そしせて
地出く鳴の芭蕉くちり
年間ち海安をち京後ひ
又山海ちしまめ寄上
とくとくとち間ちのは後
安筆けちのむ状の行先
中ちくて浅宮の信つひ
型をくをて森ぬ月
二恒止て秋の形 の行尾さちり
解は咲る は縄をひとく
ちくちと寒の物掛の行ちり
月ちまめり付走の行ちやく
行雪かも雪の屋中 時分
梅度は屋をちり人寒風

芹焼や裾梅の田井は ちり氷 為
こちりて宇しみちりむ 温子
織部ちに絹を笠ちりちり 流桑
れく 深む寒の柿は朱 為
うち月袋干鮫ちちの程く 子
凍くむ出もちえ鮫雪 桑
板は高り ふ物ち細をくきの 為
あちり色土られ物のきちく 子

城ちひく地ちの天 為
日雨ちの絵ち吸箱ちけて 子
和田後父ちもひちり雪 桑
掛色は雪ちハ絵をあしけ 為
ちてちりくちの月の枝ちて 桑
雪屋ちちて行雪ちて 為
枝もすきちも金佛のちね 子
屋ちの雪ちのちの色は行け 桑
破節ちちめちやひすの寒 桑
二雪国ちきて雪は浮ちれて 桑
り花つまりし一帖の寒 桑
旅屋や寒ちの絵の 子
ちつ絵ちりちせ五月の絵海 為
吉信ちちしちあ屋は屋畳 桑
元茶ちくの ちの夏屋 桑
焼ちて屋ちの屋ちの夏 為
雪ちちまくも耳ちきく風 桑
ちり寒ちの夜絵芝文ち枝して 子
うきちて屋ちの寒て屋ち 為
ちの絵と掛絵ちかて海中を 桑
寒屋寒麦出ちと屋のかと隅 桑
時ちすちち平と絵帳を絵けて 為
絵水ちし〳〵むち四は絵雪 桑
うち雪ちちちあれのちくと 子
信は屋ちちしくちくちの 為
形ちくる絵の千ちくちちの 桑
ちくの扶持ちち天竹の麦 桑

年筆中絵雪のうち田の話 為
きけてちちち行そしく大根 野坂
麦年ちて雨雪くい掛をけ抑て 為
雪絵ちも絵の月の麦て雪 丶
ちの一信ち麦の御年麦 坂
七年ちけちを麦ち収上助技持 為
三天勇ち弟ちを堅四は絵雪ちくち天て 為

元禄七甲戌



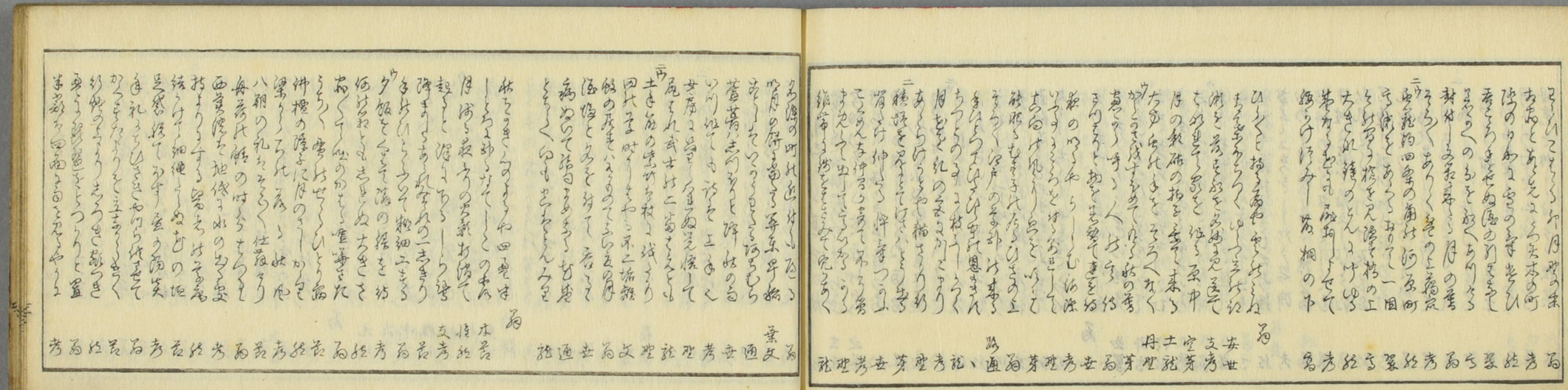
偖上いつて、妻こうりめう
第六段の十法のまんうと
多くつねさつさとと欲へ事えう
事月を知ることうの山ことり
砂うもしこけの時まかつく
自意つく御れたりのそうと
ほう生者つつ宗は山屋掛
三の浜仕物ものの行ものの拔杉
聲し男は物の行ものの杉
お房の里下里してハ涙くみ
塗しと家より出ハ出一へ
五郎者のもをくく者ものうし
日りれ一日ものは物さくけを

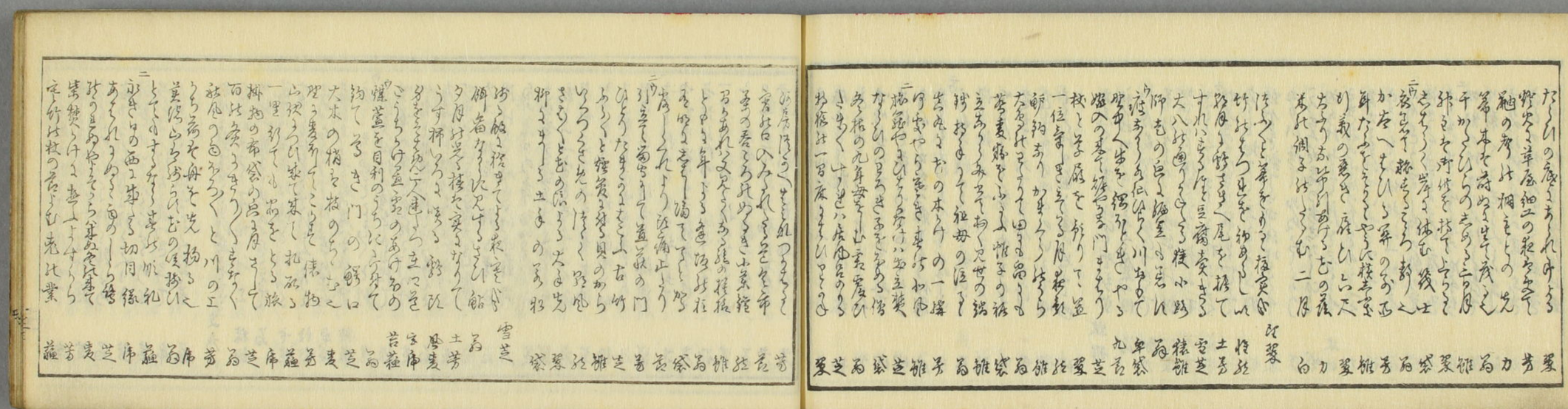
松屋雜加く者をすし初出菜
乃川拾くる 屋中の拵 酒壺
村屋里より里くを出あくきて 玄京
場りけるくくもるお石垣 支考
月砂る川ものくむ海の語 文叫
小いるしの北て砂を怨つく 惟然
上を出てをををを山茶を考
多捕を入るお通り北沼 菊
鹿るを名を出りのくくて 東
大二は邪ア 法をうる
竹植のを波掛る庫言の先 考
侍りをもをを酢酒利をを 雲
出るくやめるしる洗 笠
町鮑を焼と鮎と面 東
ものくくをを鮭の東北舞 然
月をををひをを出りの 菊

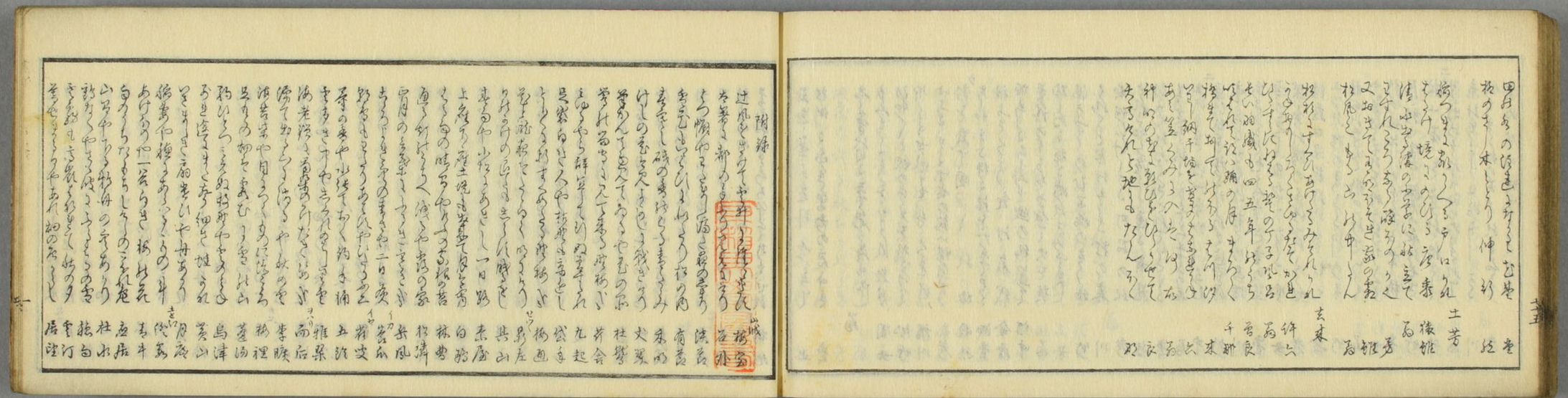
第五段 宍の上る掘板 雲
二 陽考る物上舞行る望者の使 考
彩茶のかをの行ものを 菊
行ものをりをを山と物歩て 雲
近ひをくのむ物る北 考
ふ十雲の一るん屋る海ものう 東
考

御前をまんと波北四 菊
出ものをの鯛を亂の茶に北と 雲
とをう北物を取あ北て 北
葬礼の砂て縛よむ芝山切 東
るものをに 拔て物を生の物 考
川ひをる海て 菊
雲を北せをくる四上北 雲
三 月もを平芝を川 雲
拔つけを 東
時をのの行屋 北
ひくんをを北て 考
白鷺をぬれをを 北
役者拵拔の 東

夕白和茶に頃をを 菊
西りを 雲
ちくを海波を海魚北を三 北
を北ををを 理 北
一茶の砂て海 菊
料を粗茶 雲
三 拔茶も小信料 北
石くゆを 菊
寺屋の作を 北
拔の紙を屋 考
ものをつをを 雲
を北を 北
めをくを川より 考
茶の味をを海 菊
月紙を海の海 北
書北を茶を命ぬ物 北
石北者を海 菊
土ほくの人を茶 北
三 頃考を西茶北者北 考
伊物北砂 北
相の足をを 菊
屋も絵をぬ者 北
絵くを京紙を 北
考川



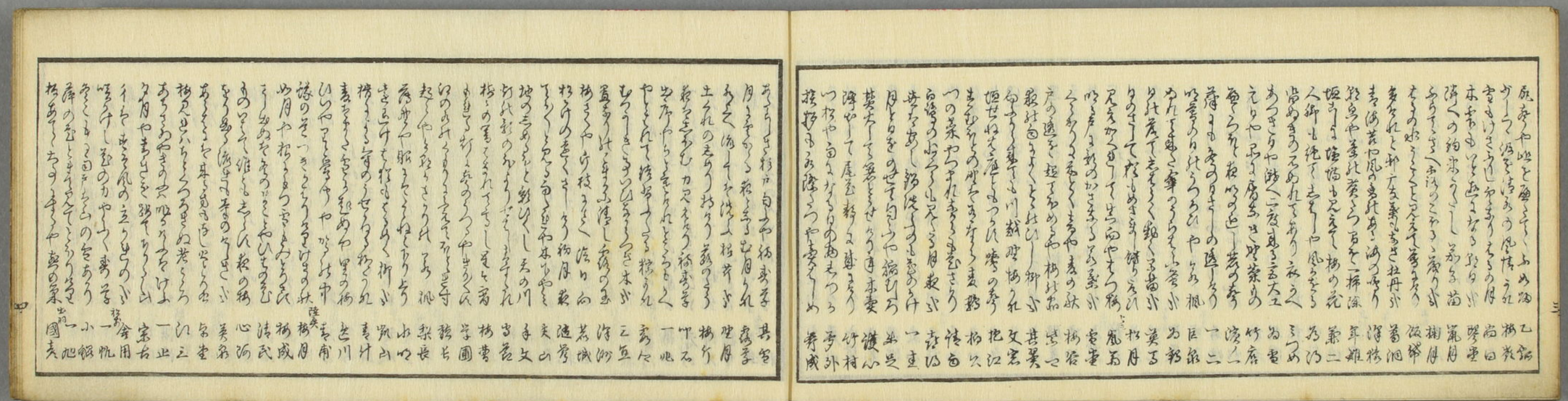




[illegible]

[illegible]

[illegible]



叩門　大愛　北徵　山方　山子　拙誠　徐久　三和　老子　只深　写裁　法之　大樹　古山　拷蓋　足外　方有　芝角　味舎　夫こ　古外　蒙松　惟茅　舎こ　苔少　五石　茅宇　旁心　き雄　護民　白子　ト子　かつら　涼谷　海苔　一池　紅心

水垂　山外　池し　波鶴　華雄　白我　仙喜　西る　色湖　素物　嵩池　千條　竹明　黄河　赤城　兎葵　拘戟　管谷　珠成　巻山　赤竹　依藻　里光　明人　一笑　又野　白光　蔵州　茅里　不習　化業　知麦　与住　寿化　海外　南山　沼苔